

中国でのパンダ誘致に関する調査報告書

目的

茨城県の活性化を狙いに、日立かみね動物園へのパンダ誘致を進めるための調査

調査時期

令和元年10月20日～22日

主な訪問先

10月21日: 中国人民対外友好協会

10月22日: 北京動物園視察

活動内容

茨城県への誘客を促進するため、本件にパンダ誘致の調査を行った。そのため、中国と海外との友好を一手に担っている中国人民対外友好協会を表敬訪問し李小林会長にお会いしてパンダ誘致について会談した。併せて、パンダの飼育や海外への貸し出しを行っている北京動物園を視察した。

○10月21日

午前、張部長と午後の日程及び李小林会長との会談について事前打合わせ
午後、中国人民対外友好協会を訪問し李小林会長と面談し、茨城県がパンダの保護・育成・繁殖を目的として、かみね動物公園に誘致を希望している事をお伝えし実現に向けてアドバイスをいただきたい旨お願いした。来月11月29日に大井川茨城県知事が北京を訪問の折にはぜひお会いしていただきたい旨の話をし、李会長からは私が北京にいる限りお会いしたいとの返事をいただき、会談は友好のうちに終了した。この時の訪問内容については、翌日の対外友好協会のホームページに詳しく写真付きで掲載されました。思いもかけない大きな成果であると思う。

○10月22日

中国人民対外友好協会の張部長さんと、市内にある北京動物園を訪問し関係者と共に園内をつぶさに案内いただき飼育の現場でパンダ繁育状況について詳しく説明を受けた。

成果

中国人民対外友好協会は、海外との友好を進める一方、技能実習生の送り出し機関としての役割も担っている。本県では、平成 29 年に結城市を拠点とする財団法人茨城国際親善厚生財団が介護職の外国人技能実習生の管理団体として、同協会との間では実習生派遣の協定を結び、中国から実習生を受け入れている。この縁から、表敬訪問では中国人民対外友好協会の会長で李先念元国家主席の令嬢、李小林氏への表敬訪問も行うことができた。表敬訪問の中で、パンダ誘致については、施設設備や飼育環境の整備などに相応の期間が必要だというアドバイスを受けた。一方、茨城県と中国との友好関係を今以上に進めたいという双方の意向も確認した。

中国でのパンダ誘致に関する調査報告書

目的

茨城県へのパンダ誘致と中国茨城県の友好推進に関する調査

調査時期

令和元年 11 月 27 日から 11 月 29 日

主な訪問先

11 月 28 日：四川省・成都大熊猫繁育研究基地

11 月 29 日：国家林業草原局・野生動物保護協会
中国人民対外友好協会

活動内容

茨城県は 6 月 26 日に日立かみね動物園にパンダを誘致する「いばらきパンダ誘致推進協議会」を設立。その実現に向けて、大井川和彦知事や小川春樹日立市長、茨城県日中友好協会会長の川津隆県議会議長らと訪問。誘致への要望を伝えるとともに、2020 年が東京オリンピック開催年でもあることから、中国との一層の友好関係推進に向けて協議した。

○11 月 28 日

四川省 成都大熊猫繁育研究基地を訪問した。

広大な敷地に 204 頭のパンダがほとんど自然の状態で飼育されていました。基地内をつぶさに視察した後、張基地所長、侯動物保護センター長と会議室で意見交換を行った。

主な内容は

- ・パンダには自然のものと人工繁殖で生まれたものがある。自然のものは移動できないが人工繁殖で生まれたものは移動することができる。
- ・まずは両国の外交や友好を進めること。駐日日本大使館の孔大使が重要である。
- ・中国や四川省と茨城のつながり、歴史や経済文化などの中日友好関係をPRしていくことが必要。
- ・パンダ貸与の決定は首相同士で決まるため安倍首相から習近平国家主席にお願いする事が大事。その時に、茨城の話が出ればよい。

○11月29日

午前、北京の中国国家林業草原局、中国野生動物保護協会を大井川知事、小川日立市長、川津隆日中友好協会会長と共に訪問しました。中国国家林業草原局は以前に「いばらきパンダ誘致推進協議会」のアドバイザーである蘇雲山氏の元の職場であり、局長さんはじめ職員の皆さんは顔なじみであり会談は友好的であった。中国国家林業草原局は政府のジャイアントパンダの調整窓口であり、調整の実務を担当する中国野生動物協会に対してパンダの誘致を表明するとともに要望書を手渡した。

面会者

孟中国国家林業草原局国際合作司長及び斯中国野生動物保護協会国際合作処長

主な内容について

- ・茨城県や日立市のパンダ誘致への強い熱意は理解した。日本内での候補地の一つとして考えていく。
- ・パンダ誘致にはパンダの保護や繁殖技術等の交流に限らず、経済や文化など幅広い交流を続けていく事が必要であるとのコメントが寄せられた。
- ・パンダ貸与の話は政治の話であり、基本的には北京が決める事だ。しかし同時に現場レベルで調整しておく事は重要。
- ・パンダを受け入れる施設や場所、技術の合意は後からでも良いので、まずは研究、教育の協定を成都基地とかみね動物園で結んでしまうのが良い。是非一度連携協定案を送ってほしい。
- ・最終的にはパンダ貸与は中国野生動物保護協会と締結することになる等の貴重な意見でした。

午後、中国人民対外友好協会を訪問し戸副会長とパンダ誘致について意見を交換した。

主な内容について

- ・茨城県のパンダ誘致には積極的に協力していきたい。
 - ・パンダが生息する四川省や陝西省、甘肅省などとの友好都市交流を進めるのも良いと思う。等のコメントが寄せられた。
- その後、大井川知事から友好姉妹都市の提案があり戸副会長からアドバイスを頂いた。

成果

日本でのパンダ誘致は、茨城県日立市のほか、秋田県、仙台市、神戸市、沖縄県が名乗りを上げている。パンダの飼育関連施設などを視察し、日立かみね動物園の施設の充実や飼育委員の確保・育成など、今後の取り組んでいく課題などを確認した。

一方、中国人民対外友好協会から、パンダ誘致と併せて、茨城県と中国との友好をより進めていきたい意向も示された。具体的には、パンダなど野生動物の自然保護区を持つ陝西省と茨城県の友好都市をまず締結して関係を深めたらどうかとの意向が示された。このため、県では陝西省との友好都市締結について積極的に推進する方針を決めた。また、日立市はパンダの縁で四川省成都との姉妹都市を要望しており、県、日立市、いばらきパンダ誘致推進協議会とともに協議を進めている段階だ。